

霊的な再生(「新しく生まれ変わる」こと)

ペテロの手紙シリーズ #19

ロバート・D・ルギンビル博士著

はじめに： 私たちは、2 節の「恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように」というペテロの挨拶の結びの言葉に触発されて、霊的な成長というテーマについてかなり長めの余談に入りましたが、このレッスンでは、第一ペテロの手紙の解説に戻ります。(これまでのレッスンで、霊的平安について広範にわたって議論してきた通り)この言葉をもって、ペテロは神の愛顧(恵み)が私たちに対して増し加わるように、また私たちの内なる霊的な福利(平安)がもたらされるようにと願っています。増し加えられる恵みと霊的な平安は、いずれも霊的成熟の重要な実です。したがって、ペテロが私たちこれらのことを願うとき、それは私たちが個人的な霊的成長という課題を受け入れる場合にのみ、彼の「願い」が成就されることを念頭に置いているのです。この挨拶のひとつの結果は、直後の段落(3-9 節の頌栄<神の栄光を讃える言葉>)が、この前の願いと結びついていることを明らかにすることです。霊的に成長するという使命に従う信者であるペテロは、今、キリスト・イエスにある「生ける望み」を神に感謝しています。私たちも、同じように霊的に前進しているならば、この言葉を自分のものとし、同じ望みに心を据えることができるでしょう。

頌栄(3-9 節)：頌栄(ギリシャ語で「賛美」または「栄光」を意味する)において、ペテロは神を賛美し、賞賛することで、読者にとって重要な聖書的情報を伝えています。2 節の霊的成長への願いに結びついた頌栄は、神への賛美の歌の形で伝えられた、**美德思考**の三つの主な焦点の詳細な説明です。ペテロは、希望、信仰、愛という順番で、三つの主要な徳を扱っています。

3-5 節:生ける望み

6-7 節:苦しみは信仰を鍛える

8-9 節:キリスト、私たちの愛の対象

[第一ペテロ 1 章 3-5 節の<イクシス> 訳：](#)

私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、その大きなあわれみによって、私たちをイエス・キリストの復活によって生ける**希望**に生まれ変わらせ、**朽ち果てることも、汚されることも、消えることもない相続財産**を受け継がせてくださいました。この相続財産は、私たちのために天に保管されており、私たち自身も神の力と神への信仰によって守られ、終わりの時に明らかにされる**究極の解放**へと備えられています。

生ける望み：次の3節は、霊的な成長において重要な要素である徳に私たちの注意を向けます。それは「望み」です。これまでの研究で見てきたように、徳は私たちの思考において重要な焦点であり、私たちの高い召しにふさわしいキリスト教的な態度や行動に集中するのを助ける思考の道筋です。徳に心を集中させると、真理の全体的なカテゴリーを明確にし、それらが触れるすべての重要な原則を思い出させてくれます。徳は、私たちの日常生活における出来事を解釈し、適切な聖書の真理にアクセスし、それを適用するための重要な手段です。例えば、希望という徳に思考を集中させることで、永遠の現実に関連するすべての重要な原則、すなわち、人生の倦怠や試練を超越する素晴らしい事柄に焦点を戻すことができます。

希望は、私たちの視線を周囲の世界の欺瞞からそらし、私たちには別の人生、より良い永遠の命が天国で待っていることを思い出させてくれます。聖書にはこのテーマに関する重要な情報が数多く記載されていますが、ペテロは3-5節で、希望の三つの重要な側面に焦点を当てています。この三つの側面は、ギリシャ語のテキストでは明白な並列形式で扱われているため、上記の訳文で強調しています。ペテロは、これらの各側面を私たちが期待する(そしてキリストにあってはすでに手にしている)新しい人生と結びつけ、それぞれを前置詞 *eis*(「〜へ」)で導入しています。私たちの神の憐れみにより、私たちは生まれ変わりました。

1) 生ける望み(3節)へ

2) 朽ちることのない相続財産(4節)へ

3) 究極の解放(5節)へ。

3節の「生きる望み」は、私たちが永遠の命を享受する復活の体に目を向けさせます。4節の「朽ちることのない相続財産」は、虫も錆も決して滅ぼすことのできない永遠の報いを思い起こさせます。5節の「究極の解放」は、この世で信仰を保ち続けたので

あれば、最後のさばきで「立つ」ことができるであろうと私たちを勇気づけています([詩篇 1 篇 5 節](#)参照)。

さらに、この三つの希望の側面は、キリスト教的な生活における三つの変容の一つとそれぞれ対応しています([コロサイ 1 章 13 節](#)参照)。レッスン#13 で見たように、これらの変容(または「聖化」)は、聖書が「聖さ」におけるクリスチャンの進歩を描写する方法であり、つまり、俗悪な領域から霊的な領域への変容を意味します。私たちは、「聖なる方」であるイエス・キリストにあって「聖なる者」という立場を得ることによって「聖なる者」としての歩みを始めます([立場的聖化](#))。そして、復活の時に新しい体を得て、過去の罪深い生活の痕跡が一切なくなることで、完全に「聖なる者」となります([究極的聖化](#))。その間、私たちは「聖なる者」として生きるため、罪や腐敗の影響を振り払う努力をすべきです([経験的聖化](#))。この中間経過における変容(聖化の初期段階と最終段階とは対照的)は、私たちが日々下すあらゆる決断に依存しています。したがって、経験的聖化は本質的には霊的成長と同義です。

ですから、5 節の「解放」は、イエス・キリストにある私たちの立場(地位的聖化)によって現在享受している(また期待している)保護について語っています。3 節の「生ける望み」は、復活に焦点を当て、私たちの最終的な栄光の変容(究極的聖化)に対する私たちの確信を反映しています。4 節の「しほむことのない受け継ぐ資産」とは、霊的成長とそこから生じる生産に基づく報酬への希望(経験的聖化)です。これらの希望の各側面は、私たちを取り巻くこの世に妥協せず、それぞれのための神の御計画にしたがって新たにされて([ローマ 12 章 2 節](#))、この世においてキリスト・イエスを愛し、忠実に従う者たち([ローマ 8 章 28 節](#))に、確かな将来の幸福を約束しています。

賛美(3 節)： ペテロが 3 節で「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神」と言っているのは、続く頌栄で述べられている祝福の根源である神に、私たちの感謝と賛美を向けるようにと私たちを励ましているのです。3 節で「ほめたたえられますように」と訳されている言葉は、ギリシャ語の *eulogetos* で、対応する動詞の *eulogeo* とともに、新約聖書では常にヘブル語の *barach*(「祝福する」)に相当する言葉として使われています。ヘブル語のこの単語は、もともとは「ひざまずく」という意味で、*berech*(ひざ)という単語から派生したと考えられます。しかし、ヘブル語ではよくあることですが、特定の姿勢が、それに伴う行為と結び付けられるようになりました(*todah*(感謝)という単語は、もともとは感謝のしぐさとして「両手を上げる」という意味だったかもしれませんが)。目上の人や敬意を表すべき人の前にひざまずいて話すとき、そのときに発する言葉は、間違いなく敬意をこめた好意的なものとなるでしょう。このように、ヘブル語とギリシャ語の両方の動詞は、「讃える、褒める、祝福する」という意味を持つようになりました。また、神に祝福を求めるために使用されることもあります。神が誰かに「親しみ深

く話す」ととき、通常は具体的な利益や「祝福」がもたらされます。旧約聖書に登場する「祝福」(ヤコブやヨセフなどが思い浮かびます)の中には、単なる願い事以上の意味を持つものもあります。なぜなら、祝福を願う人には神からの預言の賜物があつたからです。今日、私たちが誰かを「祝福」するとき、私たちは神の祝福をその人に与えてくださいと願っているのです。

ペテロが私たちに「神を賛美せよ」と求めたのは感情的なものであり、この意味から喜びや感情を切り離すべきではありませんが、さらに二つの点を指摘することも非常に重要です。

1) ここで求められている賛美は、妥当な範囲内で起こることに加えて、無意味で空虚な感情ではありません。むしろ、確かな聖書の真理に基づいた喜びと感謝なのです。私たちは、なぜ神を賛美するのかを理解しており、私たちの思いは非常に確かなものに向けられています。それゆえ、感謝の感情をもって聖書的に正しい考え方を支えるのです([第一コリント 14 章 18-19 節](#)参照)。

2) ここで命じられている賛美は、私たちの注意を神に再び向けさせるものであり、そのため、非常に意識的かつ制御された感情の表出です。私たちの賛美の根拠は、神が霊的な成長の源であること(その説明は前にある)と、私たちの「生きる望み」であること(その説明は後にある)に対する感謝です。神に感謝と賛美を向けることで、ペテロは私たちの側に生じ得る主観性を排除しています。私たちは、霊的な進歩を吟味し、希望の成就を待ち望む必要がありますが、これは神の計画であり、私たちは神の恵みによって、神の栄光のために、その計画に参加しているに過ぎないということを常に覚えておく必要があります。

あわれみ(3 節)： [第 1 テモテ 1 章 2 節](#) ([第 2 テモテ 1 章 2 節](#) および [第二ヨハネ 1 章 3 節](#) と比較) では、この書簡でペテロが冒頭で述べている挨拶と非常に似た挨拶の中で、パウロはテモテに恵みとあわれみと平安を祈り、ペテロが用いた二つの祝福の言葉に「あわれみ」を加えています。「あわれみ」という言葉も、この書簡の中でペテロによって用いられています。3 節では、神が私たちに新しい命を与える際の態度について説明するために追加されています。憐れみは、神が私たちを祝福する際に示す赦しの側面を表しています。一方、恵みと平和は、それぞれ神が与え、私たちが受け取り、それに報いることを表しています。誰かのために恵み、慈悲、平安を祈ることは、神の祝福のサイクル全体を呼び起こすことです。すなわち、イエス・キリストにおける神の赦しによって恵みに値する者となった人々(あわれみ)に、神の無償の恩恵(恵み)が与えられ、それを受け取った人々が霊的な成長を通じて精神的な充足感を得る(平安)というサイクルです。

この三つの言葉は、信仰、希望、愛という3つの主要な徳目にも対応しています。信仰は神の恵みを信じます。希望は神のあわれみを待ち望みます。愛は神の平和と一体です。信仰は神の唯一の御子イエス・キリストの賜物に示される神の無償の恵みを受け入れるために手を差し出します(第二コリント 9 章 15 節; エペソ 2 章 5-9 節)。このように、神の恵み深い約束を自分のものにするのです(例えば、アブラハムが神の約束を信じて跡継ぎを授かったように: 創世記 15 章 6 節)。希望とは、イエス・キリストの犠牲による神の慈悲と赦しによって、私たちの永遠の未来、裁きからの解放、復活に与れることを確信することです(エペソ 2 章 4-5 節; ユダ 21 節)。神への愛、神からの愛は、精神的な成熟の証であり、この世では生み出すことも理解することもできない心の平安をもたらします(ヨハネ 14 章 27-31 節)。

謙遜さは、神の与える性質へと私たちを導く上で大きな役割を果たし、信仰、希望、愛を恵み、慈悲、平和へとつなげる役割を果たします。信仰は謙遜さから切り離すことができないため(第一ペテロ 5 章 5-6 節)、私たちが神に問題の解決を委ねる場合、私たちは必然的に、それらを解決できないことを認識し、神の恵み深い性質と与える性質に頼らなければなりません(エペソ 2 章 8-9 節)。同様に、私たちの希望は謙虚かつ確信を持って、神の赦し(そしてそれゆえに私たちの解放)は私たちが何かをしたことによるのではなく、むしろ神の憐れみによって私たちを救ってくださったという原則(テトス 3 章 5 節)を基盤としています。そして、この憐れみは神にふさわしい謙虚な敬意を払う人々に注がれます(ルカ 1 章 50 節)。最後に、ヤコブは、パウロが説明した御霊の愛の法則と非常に似た表現で、真のクリスチャンの平和を特徴づけています(ヤコブ 3 章 17-18 節とガラテヤ 5 章 14-26 節を比較)。私たちが霊的な成長を通して平安を得(第一ペテロ 3 章 10-12 節)、謙虚に問題を主に委ねることを学ぶ(マタイ 6 章 25-34 節)につれ、私たちはこの世の心配事から心が解放され、神の愛を他者に反映させる自由を得ます。

霊的な再生(3 節):

イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。(ヨハネ 3 章 3 節)

ニコデモに対するイエスの言葉は、厳粛なヘブル語のフレーズ「アーメン amen」(「真実において」、すなわち「信頼に値する」)を二回繰り返していることから<訳者註: 上記の節の中の日本語の「よくよく」は原語で「アーメン アーメン」となっています>明らかなように、絶対的なものです。「再生」すなわち「再び生まれ変わる」ことがなければ、私たちは永遠の領域、すなわち神の王国に入ることができません。永遠の世界に入るためには、私たちに大きな変化が求められます。最初に生まれたときの人生だ

けでは十分ではありません。私たちは「新しく生まれ」なければなりません。そうして、イエス・キリストへの信仰によってのみ得られる新しい命、永遠の命を得るのです。しかし、私たちの現在の肉体は、この世の血と肉にすぎません。この肉体では、永遠の王国で生き延びることも、存在することも不可能です([第一コリント 15 章 50 節](#))。この新しい命を受け入れるためには、新しい肉体が必要です。このように、「新しく生まれる」という考えを、神の永遠の王国への入り口と直接的に結びつけることによって、私たちの主は、この真理を指し示しておられます。私たちが「新しく生まれ変わる」とき、つまり、肉ではなく御霊によって二度目に生まれ変わるとき([ヨハネ 3 章 6 節](#))、私たちはこの新しい命を立場的に所有することになります(つまり、イエス・キリストにおける私たちの確かな立場によって、この命に対して完全かつ強力な権利を有することになります)。しかし、私たちはまだ実際にそれを完全に経験しているわけではありません。新生の際に与えられた永遠の命を実際に体験して楽しむことができるのは、私たちの新しい肉体が、今私たちが所有している新しい真理(新しい命)と一つになるときだけです。つまり、私たちは復活のときに初めて、新しい命の現実を完全に体験することになるのです。復活の体とは、私たちの新しい人生(新生の際に授けられた新しい命)を宿す新しい体です。「新生」することで、私たちは新しい命を得、いつかそれを補う新しい体を得ることが保証されます。「新生」することで、私たちは神の国に入ることが保証されているのです。

この文脈におけるキリストの言葉(および聖書における同様の概念のすべての箇所)によると、「新しく生まれ変わる」とは、キリストにある私たちの新しい人生、すなわち、キリストへの信仰とキリストとの同一化によって今すでに私たちのものとなっている永遠の命を意味します。そして、私たちの現在の死すべき肉体が復活の際に不死を獲得したときに、私たちはその永遠の命を完全に経験することになります。それゆえ、私たちは、最初の誕生によって死ぬことだけが定められていたにもかかわらず([ローマ 5 章 12-14 節](#); [第一コリント 15 章 22 節](#); [ヘブル 9 章 27 節](#); [詩篇 51 篇 5 節](#))、イエス・キリストへの信仰によって「再び」生まれ、死(裁きと第二の死の切迫)から命(永遠の命、今ここで所有し、復活の時に成就する命: [ヨハネ 5 章 24 節](#); [ヨハネ第一 3 章 14 節](#))へ移ったのです。したがって、「新しく生まれ変わる」とは、新しい第二の命を得ることを意味します。つまり、神の御子を信じるすべての人に神が与える永遠の命を得ることです([ヨハネ 3 章 15-16 節](#))。信者として、私たちは今、この世において、将来朽ちない体へと復活したときに永遠の命を体験的に獲得するという保証として、この永遠の命をすでに所有しています([第一ヨハネ 5 章 13 節](#))。ですから、「新しく生まれ変わった」私たちは「新しい創造物」なのです([第二コリント 5 章 17 節](#); [ガラテヤ 6 章 15 節](#); [エペソ 2 章 15 節](#), [4 章 24 節](#))。私たちは神のみ言葉への信仰によって今生まれ変わ

っていますが([ヨハネ 3 章 36 節](#))、将来、神が約束してくださった新しい体において永遠の命の実を実感する時を待ち望んでいるのです。

このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう。(コロサイ 3 章 1-4 節)

私たちが持つ永遠の命は、神のもとで「安全に隠されている」のです。私たちの希望である主イエス・キリストが、栄光に満ちた再臨によって地上に現れるとき、私たちも栄光をまといます。それは、私たちの永遠の命のための永遠の器である、新しい永遠の体の輝かしい現実です。したがって、上記の聖句では、新しい誕生、すなわち、キリストにある私たちの現在の「立場上の」新しい命と、復活による将来の成就という両方の要素が強調されています。

もちろん、聖書の他の箇所でもこのテーマが取り上げられており、キリストにあつての私たちの新しい人生のさらなる側面を明らかにされています。この新しい誕生をもたらすものは神のみ言葉です。[ヤコブ 1 章 18 節](#)には、神が「真理のことばによって私たちを生まれさせてくださった」とあり、私たちは「初穂」のような存在になることができると記されています(復活を指す表現;[第一コリント 15 章 23 節](#)参照)。この章の後半([第一ペテロ 1 章 23 節](#))で、ペテロは、私たちは「朽ちる種ではなく、朽ちない種から、生きた永遠の神の言葉によって新たに生まれた」と宣言し、ヤコブと本質的に同じことを述べています。神の言葉が永遠に続くように、私たちも今、私たちの内に永遠の真理の種を持っているので、やがて芽が出て花が咲き、素晴らしい体へと成長し、永遠の住まいとなることが分かるでしょう([第一コリント 15 章 35-41 節](#))。「その種が内に残っている」信者の究極の保証は、ヨハネが確証しており、キリストの福音の命を与える真理の種が、私たちの中に永遠の命の確約を形成していることを指しています([第一ヨハネ 3 章 9 節](#))。私たちがキリストを信じている限り、私たちの中にあるその真理は、復活の時に私たちの永遠の命が時機を得て芽生えることを保証する種なのです([第一ヨハネ 4 章 7 節](#), [5 章 1 節](#), [5 章 4 節](#), [5 章 18 節](#)と比較)。

ペテロの手紙第一の聖句にあるように、神の慈悲により、私たちは「生きる望みに向かって新たに生まれ変わった」のです。私たちの望みは、復活と永遠の命によって死を打ち負かすことです。贖いの業によって私たちの赦しの道を開いてくださったイエ

ス・キリストへの信仰を通して、私たちは今もすでに、その祝福された復活を保証する永遠の命を所有しているのです。聖霊による救いのみわざによって、私たちは「新しくされ」、「生まれ変わった」のです([テトス 3 章 5 節](#))。私たちの一度目の誕生の終わりは死ですが、私たちは「再び生まれ」、その終わりは永遠の命です。今すでに持っていますが、来たる復活の時に成就するのです([マタイ 19 章 28 節](#))。

この復活と報いの希望によって、私たちは「生まれ変わった」のです ([第一ペテロ 1 章 3 節](#))。この希望が私たちを天国に「繋ぎ止める」ものであり([ヘブル 6 章 19 節](#))、私たちの目を天上のものに向けさせます([コロサイ 3 章 1-4 節](#))。この希望が、いつか手にする新しい天上の生活を期待させるものであるように、私たちの地上での生活を「新しいもの」にするよう私たちに促すものです([エペソ 4 章 22-24 節](#))。

ペテロが「新しく生まれ変わる」と言うとき、私たちは永遠の命を得たことを意味し、新しく生まれ変わった私たちが抱く希望とは、今すでに持っているこの永遠の命(イエス・キリストへの信仰によって新しく生まれ変わることによって)が、この地上の体が新しい永遠の体へと復活し、神とともに永遠に生きることで成就するという希望です。このようにして、「死は勝利にのまれる」([第一コリント 15 章 55 節](#))のです。キリストへの信仰による肉体の復活によって、死に対する勝利が達成されるのです。新生(そして聖霊の約束、[エペソ 1 章 13-14 節](#))において、私たちはこの未来の現実を意味深く確信しています。次のレッスンでは、この復活について聖書が何を語っているかについて論じます。

霊的な再生と新しく生まれ変わることについてより詳しく知りたい方は、次のリンクを参照してください。 [BB 4B: Soteriology, section II.7, "Spiritual Rebirth"](#).

[移動: ペテロの手紙第 20 章: 復活]

[イグゼクス・ホーム](#)